

平成 23 年度

軽米町教育委員会の事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価報告書

平成 24 年 11 月

軽米町教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）に伴い、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが規定されました。

軽米町教育委員会は、平成 21 年 2 月 23 日に「軽米町教育委員会の事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の実施要領」を施行し、点検及び評価を実施してまいりました。

報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条の規定に基づき、平成 23 年度に執行した事業について、教育委員会で点検・評価を行い、客観性を確保するために、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

《参考》

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成 23 年度在籍の軽米町教育委員名簿

委員長	菅原 皓文（～8月）
	菅波 俊美（9月～）
委員長職務代理者	古館 正
委員	関向 玲子
委員	戸草内 勝夫（9月～）
委員（教育長）	中野 新一

2 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、毎月 1 回「教育委員会定例会」を開催し、また、随時「教育委員会臨時会」を開催し、平成 23 年度は、定例会 12 回、臨時会 3 回あわせて 15 回の会議を開催しました。

3 教育委員会議の審議状況

平成 23 年度は、合計で 24 件の議案について審議しました。

- (1) 教育委員会規則の改正 5 件
- (2) 教育委員会規程の改正 1 件
- (3) 教職員の人事に関する事 2 件
- (4) 事務局職員の人事に関する事 1 件
- (5) 附属機関の委員の委嘱 8 件
- (6) 教科書の採択に関する事 2 件
- (7) 教育功労者に関する事 1 件
- (8) 教育委員会に関する計画、報告書 4 件

また、報告事項 12 件についても会議で取り扱いました。

4 教育委員会議以外の活動状況

- (1) 町議会関係 10 回
本会議、特別委員会等への出席
- (2) 会議、研修会等出席 14 回
教育委員、教育長会議等
- (3) 学校訪問
給食センター
幼稚園
小学校 4 校
中学校 4 校 延べ 9 カ所

5 平成 23 年度事業の点検・評価

(別紙 様式 1 「主要事業の概要」のとおり)

6 教育に関する有識者の意見

(1) 教育委員会事務の点検及び評価の概要

平成23年度の軽米町教育委員会の事務事業は、平成21年3月に策定された「軽米町教育振興基本計画（平成20～24年度、5ヶ年計画）」に基づき、実施されている。

多方面にわたる教育関係施策のうち、重点的に7つに分類された事業の概要について、説明を受け、それらを点検・評価した。

(2) 主要事業に対する意見

① 生涯学習のまちづくり

軽米町の住民が生涯にわたる学習を通じて、生きがいのある充実した生活を送るためには、住民一人ひとりが自分に合った手段や方法で学ぶことのできる環境づくりが必要である。

生涯学習カレンダーの継続配布など、住民に解りやすい事業展開と「協働・参画」を基本とした生涯学習のまちづくりを推進していただきたい。

② 学校教育の充実

学校教育については、各学校において、学力向上に向けて個の習熟度に応じた学習指導や支援を必要とする子供へのきめ細かい就学指導、文部科学大臣表彰を受けたキャリア教育の推進など、特色のある取り組みが行われており評価したい。

また、健康教育については、県北地区の子供たちに肥満の傾向があることから、駅伝競走などを取り入れた体力づくりが実施されている。

社会問題となっている「いじめ」については、アンケート等を実施し早期に発見するように対策がとられており、「いじめ」を認知したときは、実態の把握から保護者への説明及び解決までをなるべく迅速に行うことを目標として取り組まれている。

町の中心校である軽米小学校の建設は、PTAを中心とした「軽米小学校建設促進委員会」の意見聴取を経て設計がなされ、用地取得、造成工事等が進められているが、今後、本格的な建設工事を進めるにあたっては、子供たちに安全安心な教育環境を整えるため、堅実な事業執行を求める。

学校統合については、急速な少子化が進む中で、第2次学区調整委員会からの意見を受けて進められているが、今後統合により遠距離通学となる児童生徒について、通学その他の環境整備に十分な配慮をお願いしたい。

③ 魅力ある社会教育の推進

教育の原点である家庭教育から寿大学まで、住民が生涯の各時期において様々な学習活動に参加できるように内容や方法の検証を進め、効果的な推進を願いたい。

社会教育委員会議の評価・反省及び新年度事業への意見など住民のニーズに応えた社会教育事業が推進され、効率的な事業が実施されるよう取り組みを望む。

④ 軽米町立図書館の運営

平成 23 年度から図書館情報システムを導入し、利用者の利便性の向上が図られている。

引き続き、図書館利用者のニーズに沿って、親しみやすい運営を行い、一層の利用者拡大に努められたい。

⑤ 生涯スポーツの振興

スポーツ振興施策については、町民テニスコートの整備など住民ニーズに応じた施設整備が行われているが、今後も平成 28 年いわて国体(軟式野球競技)などが控えていることから、利用者の利便性向上のための整備に努め、さらなる充実をお願いする。

また、町民総合体育大会などの各種競技については、開催時期、方法など住民の意見を取り入れて、参加者を増やす取り組みを求める。

⑥ 多様で個性ある文化の創造

ア 芸術文化については、郷土芸能の継承活動支援を含め、地域に根差した文化の活性化を願いたい。

また、町民の多様な文化活動のニーズをふまえ、施設整備や参加機会の拡充を図り、今後も町民の文化的欲求の高まりに対応し、長期的展望に立った芸術文化振興を図っていただきたい。

イ 文化財の発掘調査保護については、桜山地区から袖の平遺跡(鎌倉時代)が発見され、貴重な調査結果が得られて完了した旨報告されたが、堅実な調査・発掘及び記録・保存に努め、調査結果については、広く町民に知らせていただきたい。

⑦ 教育振興運動の推進

少子化や子供をとりまく社会家庭環境の変化から、子供が地域の山野で駆け回ることが少なくなったように思うが、地域の子供たちが自然体験や生活体験を通して健全に育つように、学校、地域、家庭が連携して教育振興運動を推進していくことが求められている。

今後とも運動の趣旨や活動状況を住民に周知するとともに、昨年の大震災などを教訓として「生きる力」の育成に向け、地域全体の教育力向上を図りながら、教育振興運動の推進をお願いしたい。

以上のとおり、点検し、評価しました。

平成 24 年 11 月 16 日

有識者 下又善作

有識者 清藤芳太郎

有識者 大崎孝男

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

【分類】生涯学習のまちづくり

① 生涯学習推進体制の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生涯学習推進体制の充実	① 生涯学習推進本部、幹事会の設置 ② 生涯学習推進担当員の設置 ・全職員を町内16地区に配置 ③ 生涯学習推進員の研修会 ・5月9日(公民館長合同)開催	B	・生涯学習本部会議を開催し、生涯学習に関する施策を推進するための体制整備をした。 ・在職5年以下の職員を対象に研修会を実施し、生涯学習推進担当員の資質向上を図った。 ・生涯学習推進員会議と自治公民館長会議の合同開催により、生涯学習に対する連携の強化が図られた。 ・生涯学習に関し、関係各課等相互の事務の緊密な連絡調整を図ることができなかった。

② 協働・参画による生涯学習

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 学習情報の提供	① 生涯学習カレンダーの発行 ・4月4日発行、全世帯配布 ② ホームページの随時更新作業 ・教育委員会ページの情報更新	A	・町民の学習に必要な情報を提供し、町民及び職場、団体等に必要かつ重要な事業として評価を得た。 ・随時更新により、情報提供に寄与できた。
2) 学習活動の支援	① 地区学習会講師派遣事業 5地区5件 ② 学社融合・社会人講師派遣事業 ・1保育園5小中学校6件	C	・地域における学習活動に活用するために、更なる周知活動を強化する必要がある。 ・各学校での年間事業として定着してきた。また、学校と地域との連携が図られることを期待する。
3) 協働・参画のまちづくり	① 第10回軽米町民生涯学習フェスティバル(住民の手による生涯学習フェスティバル実行委員会) ・2月5日開催、31演目 出演者数延べ267人 観衆約360人 ② 「新春まちづくり交賀会」 ・1月4日、88人参加 ③ 生涯学習25周年記念講演会 ・10月16日、65人参加	B	・住民の手による生涯学習フェスティバルは10年目を迎え町民に浸透してきており、協働参画意識の高揚の一助となっている。 ・住民との協働による事業の定着化が図られてきている。 ・実行委員の新規入会者が少なく、組織強化が必要。 ・連携と事業集約により産業分野のコミュニティ活性化を図った。また、「食」をテーマに「軽米町の求心力を探せ」と題して、日本コナモン協会会長熊谷真菜氏に講演をいただき、大変有意義であった。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

【分類】 学校教育の充実

① 就学前教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 幼稚園教育の充実	① 幼稚園教育要領の趣旨に基づき園の実態にあった教育課程を編成し、保育指導を展開 ② 定期的な園内研修の実施とその他の研修への参加	A	・幼児一人ひとりとのふれ合いを大切に、個性を伸ばしながら、集団生活に適應するよう指導した。 ・保育指導を充実させるため教職員の指導力向上に向けた各種研修を行なった。
2) 幼稚園運営の弾力化の推進	① 幼稚園開放事業(ニーズ掘起し) ② 子育て支援事業(保護者からの子で相談や悩みに適切に対応し支援を実施) ③ 幼稚園、保育園のサービス平準化の検討(延長保育、給食、保育料見直しの検討)	B	・子育て環境の向上に向けて、保育時間延長の実施に向けた検討を行った。 ・今後も保護者ニーズの掘り起こしを行い、園のあり方について、幼保連携を視野に入れた具体的な検討が必要である
3) 幼稚園、保育園、小学校との連携	① 幼保小連絡会の開催 ② 幼保交流会の実施 ③ 公開保育、授業の実施と参観	B	・幼稚園、保育園、小学校の連絡会や交流会等を開催し、相互の参観により、情報交換を行った。 ・他施設の子どもたちとの交流を行い、小学校への円滑な進学を図った。

② 学力の向上

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) わかる授業の推進	① 学習指導要領における到達目標を分析し、授業改善を図るための研究と実践を推進 ② 全小学校にデジタル教科書を導入した。(国語、算数)	B	・新学習指導要領の趣旨徹底を図りながら、教員の指導力向上を目指した授業改善研修を実施した。 ・基礎的知識・技能を習得させ、それを活用することによって問題解決を図るといった基本的な能力を身につけるような授業を実践した。
2) 個に応じた指導の充実	① 習熟度別指導の実施 ② 少人数指導の実施 ・基礎・基本の確実な習得を目指し、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を実施する体制作り	A	・子どもたちの理解度を把握するため、少人数指導やチームティーチングなどを取り入れながら、個々の理解や習熟度に合った学習指導を展開した。
3) 学習定着状況の把握	① 学力検査・学習定着度状況調査 ・標準学力調査 小学校1～3年生 ・県学力調査 小学校4～5年生 中学校1～2年生 ・全国学力調査 小学校6年生 中学校3年生	A	・学力検査、学習定着度調査などの結果を分析し、課題整理や指導方法の見直しを行うことにより、調査結果を指導改善に生かすよう努めた。 ・学力向上対策会議を開催し、各学校の学力の実態とその改善に向けた取組について意見交換及び研修した。
4) 学習習慣形成の推進	① 授業と連動した家庭学習の推進 ② 学習の適切な評価を実施	B	・児童生徒に自学自習の習慣を身につけさせるため、授業と連動した家庭学習を行うよう意図的、計画的に課題を与えるとともに、学習の成果について適切な評価を与えるよう努めた。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
B おおむね達成できた D 不十分である

③ 特別支援教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 就学指導の推進	① 就学指導委員会の開催 ② 特別支援学級(晴山小情緒)新設検討	A	・心身に障がいを持つ子どもの早期発見と的確な実態把握のため、関係機関が毎月1回会合を持ち、適切な就学指導を行った。 ・5歳児健診と連携し、個々の児童の早期実態把握に努めた。
2) 支援・指導体制の充実	① 専門的な機関との連携 ② 特別支援コーディネーターの配置 ③ 支援員等の配置 ④ 支援員研修会の実施	A	・障がいのある子どもとその保護者等に対し、相談や支援ができる体制の整備に努めた。 ・各学校に特別支援コーディネーターを配置して、校内の支援体制を整備するとともに、特別支援学校との連携により障がいに応じた支援を行った。

④ 教員研修の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教職経験者研修	① 授業力向上研修 ② 5年研修、10年研修	A	・総合教育センターや教育事務所と連携を図りながら、教員の指導力向上に向けた各種研修を実施した。
2) 研修の充実	① 教務主任研修会、研究主任研修会及び授業改善研修会等の開催	B	・各学校の校内研修を充実させるため、主に主任層への研修に力点を置くことによって、学校組織全体の資質向上が図られた。

⑤ 健康教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 学校保健の充実	① 児童生徒、教職員の健診 ・児童生徒(内科、歯科、耳鼻科眼科、心臓、生活習慣病貧血、寄生虫、脊柱側弯) ・教職員(定期健診、胃・大腸検診) ・プール細菌検査 ② 学校医、学校薬剤師の委嘱 ③ 薬物乱用防止学習会実施	A	・日常の健康観察を重視し、学校医等との連携を図りながら、各種検診の実施と事後指導を行って、児童生徒の健康管理に努めた。 ・インフルエンザなどの感染発生時には、感染拡大を最小限にとどめるよう対策を講じた。 ・教職員に対する各種検診も行い、自らの体調管理を喚起した。
2) 学校安全の充実	① 学校遊具点検の実施 4～5月 ② AEDを設置(晴山小) 全小中学校設置完了 ③ 交通安全教室の実施	A	・児童生徒の登下校時の事故防止に努めるとともに交通安全教室などを実施した。 ・学校管理下における各種事故を防止するため、学校施設の管理に努めた。
3) 学校給食の充実	① バランスの取れた学校給食の提供 ② 学校訪問(食育・栄養学習) ・食に関する学習会開催(とり肉の日給食会等 4回) ・栄養指導 2回 ・児童対象の料理教室 1回 ③ 食に関する広報誌を配布 ④ 地元食材の利用と郷土食の活用 ⑤ 放射性物質測定器の購入 ⑥ 軽米高校へ副食給食の提供	A	・安全で栄養摂取基準量を満たした給食を提供するように努めた。 ・地域で生産される食材を活用した特色のある給食の提供に努めた。 ・生産者との交流給食会などを行って、食育指導を展開し、生産者の苦労やバランスのとれた食事の大切さを伝える機会を設けた。 ・安全な給食を提供するため放射性物質測定器を導入し、検査を開始した。 ・軽米高校支援のため、副食給食を開始した。

主 要 事 業 の 概 要

評価

A 十分達成できた C やや不十分だった
B おおむね達成できた D 不十分である

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
4) 体力向上の推進及び運動に親しむ態度の育成	① 各種競技会、記録会への参加 ② 体育祭・部活動等体育活動の推進 ③ 町内小学校駅伝大会開催(町小学校体育連盟主催)	A	・体育活動を通じて体力向上を図り、健康な体作りを推進した。 ・体育祭、部活動等を通じ運動に取り組む姿勢態度の育成を促すとともに、各種競技会で成果を発揮できるように支援した。

⑥ 道徳教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 道徳教育の要である「道徳の時間」の充実	① 道徳教育推進教師の配置 ② 「道徳の時間」の充実	A	・各学校に道徳教育推進教師を配置し、道徳教育の推進体制を整備した。
2) 家庭、地域社会との連携を深める道徳教育	① 家庭や地域の力を生かした道徳教育の実施 ・福祉施設訪問や地域ボランティア活動への参加	B	・地域活動やボランティアなどに児童生徒が生き生きと参加する姿が見られた。

⑦ 適応指導の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生徒指導体制の一層の充実	① 学校警察連絡協議会の開催(年4回) ② 生徒指導連絡協議会の開催(年4回) ③ 軽米まつり巡回指導(3日間)	B	・生徒指導に関する協議会が開催され、警察と学校関係者の意思統一が図られた。 ・各学校の指導体制についての情報交換により、連携強化が図られた。
2) 教育相談体制の確立	① 教育相談員 ・相談活動の実施(毎週火曜日) ② スクールカウンセラーの配置	B	・教育相談員を置き、児童生徒や保護者の教育に関する悩みについて、相談活動を実施した。 ・スクールカウンセラー配置事業を活用し、児童生徒や保護者、教師に対する助言を実施
3) いじめ不登校問題行動への対応	① 問題行動の未然防止 ② いじめや学校不適應など 早期発見と適切な指導 ③ 健康福祉課、児童相談所との連携(情報共有)	A	・問題行動、学校不適應などは、今後とも関係機関等と連携を図りながら未然防止に取り組む。

⑧ 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 目標達成型の学校経営の推進	① いわて型コミュニティ・スクール構想に基づき、「まなびフェスト」(具体的に検証可能な目標)を設定	A	・すべての学校が「まなびフェスト」を設定し、目標達成に向け取り組んだ。
2) 教育活動の評価の推進	① 学校評議員等の設置 ・幼 3人、小 13人、中 12人	A	・教育活動についての自己評価と外部評価を取り入れ、教育活動の改善が図られた。
3) 特色ある教育活動への支援	① 総合的な学習の時間の充実	A	・地域ゆかりの文化、人材等を活用した学習活動によって、各学校で特色のある教育活動が展開された。
4) 学校裁量の拡大への対応	① 事務の共同実施	A	・学校長のリーダーシップや教員の企画力の一層の発揮を促すための取り組み、事務処理体制の整備を行った。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

⑨ ボランティア教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 地域社会をもとに体験的な学習の推進と実践的態度の育成	① ボランティア活動の実施 ② 地域で行われるボランティア活動への参加	B	・児童生徒を家庭や地域社会と連携したボランティア活動に参加させることにより、生活の中に様々な課題があることに気付かせ、福祉や環境等の分野における奉仕活動、社会貢献に対する理解と関心を高める契機とした。

⑩ 中高一貫教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 系統的・継続的指導の充実	① 連携型中高一貫教育の実施	B	・中学校・高校が連携して6年間一貫した指導体制作りを行っているが、新しい連携のあり方を検討していく必要がある。
2) 地域との連携	① 中高一貫教育地域支援者会議等の開催 ② 中高一貫だよりの配布(年4回:学期ごとに発行)	B	・一貫教育支援者会議を開催するとともに、中高一貫だよりを発行し、地域の理解と協力を求めた。 ・少子化の影響もあるが、軽米高校入学志願者数の減少が続いており、ますます地域の連携が重要となっている。
3) 交流活動の充実	① 中高の交流事業の推進	B	・中高の生徒や教師の交流で高校へのスムーズな進学準備が図られた。 ・軽米高校入学者確保の観点から、今後も多彩な交流事業の実施が望まれる。

⑪ 環境教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 身近な自然や環境問題を題材とした体験的な学習の推進と実践的な態度の育成	① 地域財産を生かした体験的な学習の推進 ② 太陽光発電設備の仕組みなどを学び、低炭素社会実現に向けての環境学習	A	・地域の身近な自然や環境問題を題材とした、観察や見学など体験的な学習により、実践的な環境学習を行った。
2) 学校・家庭・地域との連携の推進	① 地域社会における環境への取り組みとの連携 ・リサイクル活動の推進	B	・地域で取り組んでいる環境運動との連携やリサイクル運動などに取り組むことにより、環境問題への意識が醸成された。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

⑫ キャリア教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 勤労観・職業観の育成	① 進路指導・勤労教育の充実	A	・将来実社会で「生きる力」を育てる学習を進めるとともに個々の生徒に応じたきめ細かい進路指導を行った。
2) 地域をもとに体験的な学習の推進	① キャリアスタートウイーク事業の実施	A	・中学生が町内事業所で職場体験学習を行うことにより、実社会での勤労観、職業観の醸成に資することができた。
3) 学校・家庭・地域・産業界との連携の推進	① キャリア教育推進協議会の開催	A	・地域の事業所や関係機関をメンバーとしたキャリア教育推進協議会を開催し、生徒の受入先職場の確保など、キャリア教育を支える体制整備が図られた。

⑬ 国際理解教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① 軽米町国際理解研修会の開催 ② 中学校英語検定料の助成 ③ 第2回英語暗唱弁論大会開催	A	・新学習指導要領に沿い、小学校において外国語活動の授業を行い国際理解教育の推進を図った。 ・中学生の英語力向上のため英語検定に係る検定料の助成を行い、英語のスキルアップを図った。 ・英語を身近に感じられるように、英語暗唱弁論大会を開催した。
2) 外国語指導助手の活用	① 小学校 英語指導助手 1人 ② 中学校 英語指導助手 1人 (ALT)	B	・外国人を含む外国語指導助手が学校を訪問し、英語指導を行うことにより、児童生徒の英語力向上と国際的感覚の醸成が図られた。
3) 海外派遣研修の充実	① 中高生海外派遣事業の実施 平24/1/5～1/12(8日間) 訪問先 サンフランシスコ近郊 中学生6名 随行2人派遣	A	・外国青少年との交流やホームステイ等を通して、外国の文化等に直接接触れることにより、語学力の向上と国際感覚を身に付けた個性豊かな人材を育成することを目的として、中学生の海外派遣事業を実施した。

⑭ 情報教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① コンピューター教室を活用 ・小学校 パソコン 160台 ・中学校 パソコン 148台 ② 教員対象のICT機器活用研修会を開催	B	・各学校に設置されたコンピュートールームを活用し、情報及びコミュニケーション機器の操作や情報処理能力の学習指導を展開した。 ・ICT機器を使い児童生徒に解りやすい授業を実施するため、教員研修を実施した。
2) 児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成	① 学齢に応じた情報教育の推進	B	・インターネット等を活用した情報収集など、それぞれの発達段階に応じた情報教育を行った。 ・教師が情報機器を効果的に活用するための研修を進めていく必要がある。
3) 情報モラルに関する教育の充実	① 生徒指導の実施 ② 外部講師の活用 ・生徒指導(情報モラル)研修会	B	・携帯電話やネットに潜む危険性などを機会を捉えて、児童生徒に指導した。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

⑮ 学校統合の推進と施設・設備の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 軽米小学校の建設	① 軽米小学校施設の実施設計 ② 造成工事を発注(H23～H24) ③ 軽米小学校校舎用地の取得 5,999㎡	A	・軽米小学校の新築に向けて、実施設計を行った。 ・軽米小学校建設に向けて、学校用地を追加取得するとともに、用地造成工事を発注した。
2) 教育環境の改善	① 学校施設の維持管理 ② 耐震改修、施設改修計画策定 ③ 主な工事等 ・学校施設換気設備工事 (小軽米小中、笹渡小中) 〈繰越工事〉 ・小軽米中体育館屋根塗装工事 ・軽米中グラウンド舗装工事 ・軽米中グラウンド整備工事 ・軽米中武道場外構工事	A	・児童生徒が健やかに学習できるよう、学校施設の状況を把握し、施設の整備を行った。 ・化学物質による健康被害を防ぐため、教室の換気設備工事を行った。 ・前年からの繰越事業である小軽米中学校体育館及び軽米中学校運動場関連の整備が完了した。
3) 学校統合の推進	① 学区調整委員会の開催 ② 学校統合に関する説明会の開催	B	・学区調整委員会の答申により今後の中学校の統合についてのあるべき姿の答申を受けた。 ・学区調整委員会の答申に基づき、学校統合について保護者説明会を開催した。

【分類】 魅力ある社会教育の推進

① 健やかな成長をはぐくむ家庭教育の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 発達段階に応じた学習機会の提供	① 家庭教育支援事業(国庫補助) ・幼児期子育て講座 14講座、延べ241人 ・小学校入学時講座 3講座、延べ69人 ・家庭教育学級講座 17講座、延べ1,421人 ②家庭教育学級(町単) ・家庭教育学級 6小中学校11講座、延べ599人	A	・国庫補助事業及び町単事業等活用し、学習情報や学習機会の提供を図り、町内全ての実践区(小中学校及び高校)において、家庭教育学級、講座を開設し、家庭教育の充実が図られた。
2) 子育て情報と交流の場の提供	① 家庭教育啓発資料の提供 ・家庭教育手帳(CD)の配布	B	・各小中学校へCD配布しており、乳幼児から中学生までの子どもを持つ親の実践していただきたい子育てやしつけのヒント集として活用されている。
3) 相談体制の整備	① 保健・医療・福祉等、関係機関との連携協力	B	・乳児検診の機会を利用した読み聞かせや子育て相談など、ふれあいセンターと連携した講座に取り組んでいる。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

② 青少年の心をはぐくむ学習活動の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 地域ぐるみの活動機会の支援	①子ども会育成会連絡協議会活動支援 ・育成会ソフトボール大会 4月24日、4チーム ・子ども会ソフトボール大会 7月10日、11チーム ・子ども会卓球大会 1月8日、24チーム	B	・町内子ども会相互の親睦と貴重な交流をとおして、多くのふれあいを深めることができ、青少年の健全育成が図られた。 ・全体に参加チームが減少している。少子化等によるものと考えられるが、チーム編成や大会の持ち方を検討しなければならない。
2) 体験的な活動機会の確保	① 子ども会リーダー研修会 (県北青少年の家) 6月11、12日、45人 ② 子ども会リーダー音更町相互訪問研修 7月25～28日(訪問) 8月2～4日(受入)18名派遣 ③ B&G海洋体験セミナー(沖縄) 8月7～11日、小学生2名派遣 ④ いわて希望塾 (岩手山青少年交流の家) 10月8～10日、中学生1名派遣 ⑤B&G体験クルーズ (小笠原諸島父島) 8月17～22日、中学生2名派遣	A	・体験学習の場を広げることにより協調性を養い、心豊かでたくましい子ども会のリーダーの育成が図られた。 ・派遣事業それぞれの形態は異なるが、子どもたちは、感動の中で見聞を広め、いろいろな体験を積み重ねることができた。自分を取り巻く家族や友達、学校、地域との関わりを改めて見つめ直し、その大切さを知り、郷土に対する認識を深めることができた。
3) 活動拠点づくり	①「放課後子ども教室推進事業」 (国庫補助) 町内4小学校開設 延べ470日、8,202人 ② 学校支援地域本部事業 (国庫補助) ・学校支援地域本部開設	B	・放課後の子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所づくり)の確保が図られた。また、自然体験活動やニュースポーツ等の体験活動の機会提供にも努めた。 ・コーディネーターによる事業推進とボランティアの育成が図られた。
4) 青少年団体の活動の支援	① 成人式、成人式実行委員会支援 8月15日 参加者101人(78.2%) 中学生ボランティア9人 ② 青少年健全育成会議支援	A	・新成人を祝福するとともに、その意義と責任を自覚させ、積極的に地域社会に貢献する意欲づけが図られた。また、中学生ボランティアによる式典運営も効果的であった。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

③ 成人の学習活動の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 地域づくり活動の促進	① 自治公民館連絡協議会事業 ・自治公民館長等リーダー視察研修 7月22日、葛巻町 「森と風のがっこう」15人 ・自治公民館活動交流集会 (上円子公民館) 3月4日、公民館長等 64人	B	・研修視察を通して、自治公民館の運営及びリーダーとしての資質の向上並びに館長同士の交流を図ることができた。 ・自治公民館における活動の交流、共通課題についての研究・協議の場として開催したほか、久慈市「もぐらんぴあ」の管理運営会社社長宇部修氏より、東日本大震災からの取り組み事例から地域づくりについて学んだ。 ・各地域の公民館活動の活性化が必要。
2) 学習機会の提供	① 公民館講座の開設 ・寿大学、5～12月まで 10講座 登録者125人延べ596人 ・町民講座の開設(町民講師の活用) 菊植え、書道、生け花、布ぞうり作り、手打ちそば、夏休み子ども向け教室、演劇など19教室	B	・高齢者の生きがいづくり講座の学習機会の提供に寄与できたほか、運営委員による自主運営のため先進地視察研修を行い、自主的な取り組みが図られた。 ・町民が講師となる町民講座として各種の教室を開催し、学習機会の提供に努めたほか、一部は町民文化祭への出展も行うなど、芸術文化の振興にも寄与できた。併せて、町文化協会所属団体の活動支援にも繋がり、団体・サークル活動の一助にもなった。
3) 男女共同参画社会に関する学習の推進	① 男女共同参画計画の策定	A	・軽米町男女共同参画基本計画策定

④ 社会教育の推進体制と施設の整備充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 社会教育主事専任職員の配置	① 専任社会教育主事の配置 1名 (グループ長兼務)	C	・社会教育主事の配置が固定化されつつあり、新たな養成が急務であるとともに、人事の活性化が求められる。
2) 社会教育関係職員研修の充実	① 二戸地区、県などの各種研修会へ、職員とともに社会教育委員等を派遣。	B	・職員、委員等の資質向上に努めた。
3) 社会教育施設の整備充実	① 公民館施設の整備の充実 ・壁面鏡の購入 ・展示用パネルの購入 ② 図書館施設整備事業 ・書庫増築工事(交付金)	B	・ダンス・体操教室などの利用者の利便性を図ることができた。また、展示用パネルの購入により、展示利用の向上が図られた。 ・可動式書架を備えた閉架書庫を増築し、蔵書収納の効率化が図られた。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

【分類】 軽米町立図書館の運営

① 図書・資料の整備充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 図書資料の収集・保存	① 受入図書冊数 ・購入1,227冊、寄贈等273冊、合計1,500冊 ② 新聞、雑誌、官公庁出版物、郷土資料、視聴覚資料等の収集、保存	B	・住民の多様な学習ニーズに応えるため、利用者のリクエストや蔵書構成に留意しながら、蔵書の整備、充実に努めた。
2) 図書貸出、移動図書館車	① 閲覧、貸出、複写サービス ・登録者数 個人825人、団体7団体 ・貸出者数 個人5,974人、団体39団体 ・貸出冊数 個人27,218冊、団体844冊 ② 移動図書館車の巡回(23箇所) ・登録 団体37団体、個人23人 ・貸出 団体8,552冊、個人410冊	A	・図書館情報システムの導入により、町立図書館、移動図書館の利用が共有化され、どこでも貸出返却が可能になった。さらに、インターネットによる蔵書検索や貸し出し予約が可能になり利便性が図られた。また、一人あたりの貸出冊数を増やし、利用の充実を図った。

② 読書普及活動

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 読書普及活動事業	① 図書資料のテーマ 図書展11回、企画展3回 ② 読書感想文・感想画コンクール ・応募683点、入賞73点 ③ 読書のつどい、3月2日、115人 ④ おはなしの会「図書館ひろば」年10回、参加者数 延べ185人 ⑤ 第4回樹原ゆり朗読会、学校巡回朗読会 11月11日(軽米小、晴山小、笹渡小中、軽米幼稚園) 11月12日(小軽米保育園、中央公民館) ⑥ 図書館の本を使った工作教室2回 ⑦ 図書館映画会、3回、延べ42人 ⑧ 本の修理活動 毎週水曜日 ⑨ 幼児の絵本感想画展(出展数131点) ⑩ 図書館クイズ 4月23日～5月15日延べ91人、10月29日～11月6日、延べ63人 ⑪ 学校図書館支援事業	B	・図書館資料を活用した企画展示や講座などを実施し、図書館の利用促進を図るとともに、お話し会や朗読会、読書感想文・感想画コンクールなど読書普及事業を開催し、読書普及の推進が図られた。 ・小中学校の読書環境の充実と読書推進を図るため、ボランティアと協力しながら、学校図書環境整備等の支援活動ができた。
2) 図書館情報システムの運用	① 郷土資料データの入力 約1,600冊 ② 受入図書登録、貸出返却業務 ③ 学校図書データの入力 約28,000冊	A	・ふるさと雇用再生特別基金事業を活用して業務委託し、システムの運用が円滑に行われた。また、学校図書館システムの導入に向け、学校図書のデータ入力を計画的に行うことができた。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

【分類】生涯スポーツの振興

① スポーツ施設の整備・充実と活用促進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生涯スポーツ施設の計画的整備、有効活用	① 整備工事 ・町営運動場整備工事(テニスコート) ② 屋内運動施設「おかりや元気館」利用促進	A	・町営運動場のテニスコート6面を全天候型に整備し、スポーツ振興と利用者の利便性が図られた。 ・「おかりや元気館」は、特に冬期間や雨天時に多く利用された。
2) 学校体育施設開放事業	① 町内6小中学校(軽米中、晴山中、小軽米中、笹渡小中、小軽米小、晴山小)の体育施設を開放。	A	・地域のスポーツ活動の拠点として、地域住民のスポーツ推進の利便性が図られた。

② スポーツ活動の活性化

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 町民のスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実	① 軽米町総合体育大会(6競技) ・ゲートボール 6月23日 ・パークゴルフ 7月10日 ・軟式野球 8月28日 ・町民体育祭 10月9日 ・バレーボール 11月20日 ・卓球 2月19日 ② 第13回「森と水とチューリップ」パークゴルフ大会 5月8日、164人参加 ③ チャレンジデー2011開催 5月25日、 対戦相手:秋田県五城目町、 軽米町:参加率72.5% 参加者数7,685人 ④ 少年少女スキー教室 1月10~11日、18人参加 ⑤ 町民スキー教室 1月22日、16人参加、 2月12日、25人参加 ⑥ ナイターリーグ戦ソフトボール大会 7月~8月、4チーム参加	A	・町総合体育大会は町民総参加による生涯スポーツの振興を図り、町民の健康・体力づくりに寄与した。これまで以上に多数の町民の方々が、気軽に参加できるようにするため、代表者会議、各競技の監督会議等で幅広く意見を聞き、競技内容等の見直しや規則等を緩和したり、参加しやすい環境づくりを図っている。 ・パークゴルフ大会をとおして、健康・体力づくりに寄与できた。また、パークゴルフの普及と愛好者の幅広い交流が図られた。 ・6回目のチャレンジデーへの参加により、町民の意識も昨年以上に高まっていたように感じられた。各競技団体の自主的な大会の企画、運営が成功しており、健康づくりの啓蒙が図られた。 ・スキーの楽しさを学びながら、健康・体力づくりが図られた。 ・誰もが気軽にソフトボールを楽しむことができ、健康・体力づくりに寄与できた。
2) スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保	① 二戸地区スポーツ交流会 ② 生涯スポーツ指導者講習会	A	・県や二戸地区で開催する指導者講習会に派遣し、指導者養成に努めた。
3) スポーツ団体の育成・支援	① 町体育協会の活動支援 ② 町スポーツ少年団の活動支援	A	・軽米町体育協会及びスポーツ少年団の充実した活動の推進と競技力の向上が図られた。

主 要 事 業 の 概 要

評価

A 十分達成できた C やや不十分だった
B おおむね達成できた D 不十分である

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
4) 競技スポーツの振興	① 「夢」づくりスポーツ親善大使「少年野球教室」(スポーツふれあい交流推進事業実行委員会)年5回(2回は2日間)、小中学生、指導者延べ337人参加 ② 各種スポーツ大会の開催 ・軽米町体育協会主催大会の支援	A	・水上善雄、木田勇、清水隆一氏による少年野球教室、小中学生への専門的な技術指導により、努力することの大切さ、夢を持つことの素晴らしさを伝えることができた。また、レベルの高いスポーツ振興と指導者を養成することができた。 ・各競技団体主催大会が年間数多く開催され、連携・協力し、競技力の向上に努めた。今後も連携、支援に努めたい。
5) 生涯スポーツ推進体制の整備・充実	① スポーツ推進委員の委嘱20人 ・スポーツの実技指導及び助言 ② 健康体力づくり関係機関との連携	A	・スポーツ推進委員協議会との連携・協力が図られ、事業の円滑な推進が図られた。 ・健康福祉課との連携により、効率的な事業運営が図られた。

【分類】 多様で個性ある文化の創造

① 芸術文化の振興

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 町民の芸術文化活動の推進	① 第32回軽米町民文化祭 ○さつき展 6月18日～19日 ○開幕式典、ステージ部門 10月30日 ○展示部門 11月3日～11月6日 ○幼小中書写絵画作品展 10月30日～11月2日 ② 青少年劇場器楽「アンサンブルアジアの悠久のひびき」 6月7日、中学生276人参加	A	・町民の芸術文化活動の成果を発表・展示し、広く一般町民に鑑賞の機会を与え、芸術文化の振興が図られた。 ・中国文化に親しむ良い機会となり、親近感を持って鑑賞することができた。国際的にも活躍されている方の演奏を聴くことができた。
2) 芸術文化団体の育成	① 軽米町文化協会育成支援 ・町民文化祭の共催事業 ・視察研修(3回実施、延べ94人参加) ・加盟団体の支援	B	・協働により事業が活発に行うことができた。今後とも連携を強化すると共に、各種団体の自主性を尊重しつつ、自立する体制作りと普及拡大に努めたい。 ・視察研修を一般募集も行いながら3回実施し、芸術文化に触れる機会をつくりながら、文化協会と一般町民との交流も図られた。

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

② 文化遺産の保存と伝承

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 文化財の調査と指定の促進	① 学校用地発掘調査事業 ・軽米小学校建設用地造成に伴う発掘調査約1,400㎡ ② 歴史民俗資料館等収蔵資料整理事業(緊急雇用創出事業)5月～3月 2名雇用	A	・大開遺跡(縄文～古代)及び袖の平遺跡(中世)の発掘調査により、埋蔵文化財の保護と開発計画の調整が図られた。 ・古民家内資料のデータベース追加と調査を行い、資料館内資料のデータベースが完成した。収蔵資料の把握・検索が容易となり、管理がし易くなった。
2) 文化財の保存と活用	① 第39回軽米町郷土芸能まつり 11月27日、町内6団体及びゲスト観客150人	A	・町郷土芸能保存会加盟団体の良い発表機会となった。
3) 町民の文化財愛護思想	① 軽米町史の販売 ② 文化財調査報告書等の発刊	B	・軽米町史等の販売も好調であった。

【分類】 教育振興運動の推進

① 「基本的生活習慣の向上」～食育・読書・あいさつの習慣化～

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 学力向上「読書の推進」 2) 健全育成「あいさつの習慣化」 3) 健康安全「食育運動の展開」	① 教育振興運動推進委員会 ・常任委員会の開催 年2回開催 ・総会の開催 6月1日 ・研修会の開催 6月1日 ② 教育振興運動集約集会 2月3日 ③ 「実践のあゆみ」発刊	B	・町の教育振興運動の成果を集約し、実践区の発表と講演会を行い、各実践区との交流を深めながら、運動の意義と実践意欲を高めることが出来た。 ・「実践のあゆみ」の発刊